

# アトリエ 琉游舎 だより 122号

アトリエ琉游舎 [ryuyusha.com/](http://ryuyusha.com/)  
 琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2022年1月12日発行

## 風花 雨雪 寒九の雨

(かざはな)

(あまゆき)

(かんくのあめ)

- 今冬は風花が良く舞う冬です。高原山から風に乗って細かな雪が舞い降りてきます。雲も一緒に降りてくると、アスファルトの道路や氷が張った蓮池の面もうっすらと白くなります。北からの雪なのでサラサラとして積もることなく太陽に照らされると溶けていきます。
- 南からの低気圧で降る雪は雨雪になることが多いようです。雨混じりの雪と霰との違いは厳密には分かりませんが、寒気が北から入ってくると、雨雪は水分の多い重たい雪となり、雪掻きをしないと日陰の道はタイヤや足跡に踏まれてカチカチに凍り危険な道となります。
- 今年の寒の入りは1月5日です。寒の入りから九日目（1月13日）に降る雨を「寒九の雨」と呼び、昔から「寒九の雨は豊作のしるし」と言われていました。いわれははっきりしませんが、この時期に雪でなく雨になるということは、今年は暖かい年になり豊作が期待できそうだと、あるいは、晴天続きで乾燥した太平洋側の地方では、冬越し野菜への恵みの雨と考えられたのかもしれませんが。また、この日の雨は薬になるといって飲まれていたようです。
- 今年は「寒九の雨」は降ったでしょうか。もし降るならば私も何かの薬にと寒九の雨を集めて飲んでみようかと思えます。もちろん風邪にも新型コロナにも効き目があるはずもないでしょうが、外出時のマスクや雑踏を避けることに神経を使い家の外に一步踏み出せば気の休まらないことばかりです。だから寒九の雨を気休めの薬と信じて一服したいと思えます。
- ワクチンはオールマイティではありません。一定の効果があればそれでまずはよいはずですが。ワクチンを2回うった人もオミクロンに罹るとの報道が続けば不安は増長されるばかりです。不安を煽ることで行動制限するやり方を、安心を与えることで行動に責任を持たせる方法へと転換はできないのでしょうか。政治家やマスコミは不安のムチの方が安心のアメよりもコロナ退治に効果があるとみて、私たちを不安まみれにしたいようです。科学とデータが私たちを不安に駆り立てるならば、寒九の雨の俗信を信じた方がまだ気休めにはなるかもしれませんね。まずは安心をもたらす言葉と私たちへの信頼を、それが待遠しい1月の寒中です。

### 写経会

2月6日(日)  
13時半

般若心経・自我偈・観音偈の手本を用意しています。初めての方もすぐにできます。

### 読書会

1月25日(火)  
13時半

今年から「阿弥陀経」を読みます。浄土の姿を描いた、お経です。テキストをご用意しています。

### 映画会

毎週木曜日  
13時半から

1/13 木	13時半	生活の設計 (91分)	ゲーリー・クーパー主演。広告デザイナーのジルダはパリ行きの列車で画家のジョージと劇作家のトムと出会って意気投合し、一緒に生活することになる。
1/20 木	13時半	ドリアン・ 그레이の肖像 (110分)	オスカー・ワイルド監督。美青年ドリアン・グレイは自分の肖像画を眺めながら、永遠の若さを切望する。その願いは叶えられ、ドリアン自身は美少年のまま、肖像画に変化が現れる。
1/27 木	13時半	大平原 (135分)	開拓時代、米国の東西を結ぶ鉄道の建設が始まった。西海岸からはセントラル社、東からはライバルのユニオン社が工事を進めていたが、
2/3 木	13時半	海の魂 (92分)	ゲーリー・クーパー主演。法廷で難破船の船長テイラーが殺人罪で裁かれていた。裁判は一旦有罪になるが英国政府のウッドリーが現れ、事件の全貌を語り始めた。
2/10 木	13時半	緋文字 (70分)	ヘスターは夫が不在の間に、街の牧師と姦淫の罪を犯してしまい、この作品を通してピューリタン時代の米国社会の様相を描いたホーソンの代表作

日記をつけ始めて今年で6年目の正月を迎えました。学生時代に2、3度試みた日記を付ける習慣も、見事に三日坊主で終わっていたことを考えれば、私にとっては驚異的な持続力です。3年連用の日記なので単純にその日に起きたことだけを記述するスペースしかなく、5分も書けばスペースが埋ってしまい何を書こうかなどと思悩む必要もありません。手帳が未来の行いの予定表であれば、私の日記は過去の行いの備忘録です。

私の日記はその日にあった出来事だけを書き留めそこにまつわる感想や批評などは一切書かないので、ほとんどは書き放しのものですが、備忘録として力を発揮することが年に数回あります。それは毎年同じことの繰り返しとなる畑作業の時期の確認です。コリーナで私が体感する初霜初氷や鶯の初鳴き桜の開花日などの自然の節目の出来事はデータとして五年間日記に備忘されています。この過去のデータと大きな気候の移ろいの実感とを合わせて、畑を耕す時期や苗の植える頃を決めていきます。といってもそんなに大げさなものではなく、そろそろ種を蒔く時期だなと思って備忘録を繰ると、1週間前に蒔き終わっていたなどと言うことがよくあります。365日周期で必ず巡ってくる季節のデータは貴重です。このデータとその年特有の雨が多いや日照が少ないなどの体感の中で作物を作っていると、「自然」の几帳面さに感心すると共に「自然」にも感情があることに驚かされます。それは日々の天気の変化であり、平年と違う降雨量や気温ということなのでしょう。そのいつもとちょっとちがうなと覚えることが「自然」の感情の揺れを愛おしみ、対話することではないかと思っています。私が三日坊主とならずに日記を書き続けられる理由は「自然」の几帳面さと感情の揺れを、美味しい大根や白菜の収穫のために備忘しておく必要があるからなのかもしれません。

日記を書き始め、今に続く動機は何だったのでしょうか。退職後コリーナに居を定め琉游舎が完成するまでの約10ヶ月間は、毎日読書三昧の日々。規則正しい生活と言えば聞こえがいいのですが、起きて経を唱えラジオ体操をし読書をし食べて飲んで寝ての繰り返しの毎日。いつの間にか曜日の感覚がなくなり一週間前の出来事はおろか、昨日の出来事も思い出せないようになりました。規則正しい生活の中に身を任せると小さな出来事や変化、ちょっとしたつまづきも日常の大きな流れの中に流されて、振り返られないままに過ぎ去ってしまうことに気づいたのです。これはこれでストレスの要因を習慣の中に流してしまえるので、穏やかな毎日です。これと同じ経験を35日間の信行道場でもしました。4時起床9時消灯までの日課は毎日同じです。水行、本山登詣、朝勤、法要課業の繰り返し。ある修行僧が手書きのカレンダーを貼って1日の終わりに×印を付けていました。そうしないと今日が何月何日何曜日か分からなくなるからです。私も日記を持ち込んで就寝前のわずかな時間に今日の修行内容を記録していましたが、日課通りで特別なことが何もない毎日の終わりに終了の×印をカレンダーに付ける行為と全く同じだったと思われまます。人は大きな流れの中に身を委ねていても、そこに何らかの痕跡を残そうとするのです。それが私が日記を付け始めた動機のようなのです。

「能所」という仏教用語があります。ある行為をなす行為者を「能」といい、その行為がなされる目的や対象を「所」という使われ方です。二元論の世界認識では「主」と「客」となります。仏教の世界認識は「空」「不二」「一如」ですから、本来「能＝主」「所＝客」という説明はあり得ないのですが、論理的説明の過程（方便<sup>注1</sup>）として聞いて下さい。例えば教化指導する人を「能化」と言い、教化指導される人を「所化」というような使い方です。「主体」と「客体」のことです。また「能縁」は対象となるものを認識する「主観」を言い、「所縁」は認識の主観である心に精神作用を起こさせる「客観」であると説明されています。<sup>注2</sup>この二元論による認識世界の説明ではいつまでたっても仏教の教えにはたどり着けません。私が今まで仏教について書かれた書物を渉猟する中で、この「能」「所」が使われた言葉が出てくると、とたんに何を語ろうとしているか分からなくなっていました。「仏と我」や「法灯明と自灯明」や「他と自」が一如であり不二であることを教える過程にこの言葉は存在し得ても、これを区別する解釈や論法は仏教の教えではありません。私たちが教え（仏教）に望み歩むべきところは「仏我一如」ですから「能所一如」でなければなりません。もし私が「能」という言葉を説明せよと言われれば、それは「仏」「実相」「ありのまま」、「所」を「我」と答えます。「能」を「諸行無常」と観て、「所」を「諸法無我」と観るときに初めて私たちはありのままの世界の中に安らかに身を委ねることが出来るのです。それが「能所一如」なのです。

日記をつけることがそこまで大仰なことかと言われると自信がないのですが、それは「能所一如」に歩み続ける行いの今を確認する行為なのかもしれません。信行道場での毎日に身を委ねることはとても穏やかで気持ちのいい日々でしたが、それは言うなれば宗門が作った人為の日々です。それはありのままの日々に身を委ねる過程の方便の日々です。だから日記にその日を書き留めることが必要なのでしょう。今現在も、自然の大きい規則性と人々との関係性の中に身を委ね、それが「能＝仏」の懐の内に「所＝我」が包み込まれていく途上と信じる日々です。そして私がその行いの道を歩み続ける限り、それは「能所一如」への途上であり続けます。ですから現在位置の確認と備忘のために日記はこれからも書き続けられることでしょう。

一年の計は元旦にありと、かつては気負って一年の計を立てたものです。顧みると、その年代と立場で実行すべきこと以外は、計画してもほぼ三日坊主で終わっていたことが分かります。これを琉游舎：戸井 出琉・恭子  
繰り返した今は、私以外のものが私を行いへと連れて行ってくれるように お問い合わせ：0287-53-7848 08033508152  
になりました。2022年も、そのありのままの誘いに身を委ねて琉游舎の日々 矢板市大槻2319-17コリーナ矢板C-850  
を送りたいと思います。 注1：真実の教えに導くため、仮にとる便宜的な手段 注2：コトバンク メール：toi10lizuru@outlook.jp